学校番号	103

令和８年度　体育科

教科	体育	科目	スポーツ総合演習	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

スポーツ総合演習は，スポーツに関する各科目の学習成果を横断的な視点から探究的に学習し，生徒が体育科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることを通して，自らに適した生涯を通した豊かなスポーツライフの実現に向けた見通しを立てるとともに，スポーツと多様に関わることのできる資質・能力の育成を目指したものである。

専門学科「人間スポーツ科学科」における，「スポーツ概論」から「スポーツⅥ」まで及び運動生理学、バイオメカニクス、スポーツコンディショニングの専門科目の学習を総合的に活用し，自らが課題を設定し探究することを通して，生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力の育成を図ろうとしたものである。

３年の「スポーツ総合演習」では各自テーマを設定、調査・研究し論文を、発表する作業を通して上記の目標を達成しようとするものである。

2　学習の到達目標

①問題に対して解答する能力を養う

何らかの問題に向き合い、それを解決する能力は身につける。必要なデータを集め、分析し、論理的に主張を展開し、結論を導く技能を高める。

②問題提起する能力を養う。

③取り組んだ問題に関する理解・知識・考えを深める。

レポート・卒論を書くためには様々な勉強（文献を読みこなす、調査・実験する）し、知のレベルを上げていく。

④学術論文やビジネス文書などを書くための文章力を養う。

社会人は様々な文書を書き、わかりやすく正確に伝える技術、他者を説得する能力を身につける。

⑤卒業論文を仕上げ、自分が知り得たことを思考・判断し、形にして記述する能力を高める。

⑥自分の調査研究したことを主体的にまとめ、発表する能力を高める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・「スポーツ総合演習」の知識及については,「スポーツ概論」から「スポーツⅥ」までの科目と運動生理学、バイオメカニクス、スポーツコンディショニングの専門科目の学習を総合的に活用し，自らが課題を設定し探究することを目的としているため，それらの科目で習得した知識を前提としている。	・スポーツを推進及び発展していく上での課題を発見し，文化的，社会的，経済的側面など多角的な視点から，自他や社会の課題の解決に向けて思考し判断するとともに，主体的，合理的，計画的な解決に向けた自らの考えを他者に筋道を立て，論理的に伝えること。	・スポーツに関する課題に興味・関心をもち、担当教員と連携をとり、研究に主体的に取り組むこと。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期		テーマの設定 実験・アンケートの計画・実施 情報モラル アカデミック・インテグリティ データの分析 論文の書き方について	a: スポーツ、健康に関する課題について、スポーツ概論、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツコンディショニングの知識を用いて説明することができる b: スポーツ、健康に関する課題を見つけ、その課題に合った調査方法を調べ、計画を立てることができる。 c: スポーツ、健康に関することに興味・関心をもち、主体的に調べ、仲間と意見を交流することができる。また、担当教員と連絡を取りながら準備・実施をすることができる。	授業態度の観察 レポート	レポート	授業態度の観察

2学期		データの分析・考察 論文執筆 抄録作成 分野別発表準備・発表	a: 文章の書き方、データの取り扱い方や示し方、参考文献の明記の仕方といった論文の書き方を理解している。 b: 調査によって得られたデータから、課題解決に必要な分析方法を見つけ、結果を出すことができる。また、結果から正しく考察し、結論へと導くことができる。 c: 論文の作成に向けて担当教員と連携をとりながら、主体的に取り組むことができる。また、実験や調査を仲間と協力し安全、健康に配慮しながら行うことができる。	レポート 論文	授業態度の観察 技能観察 レポート 論文	授業態度の観察
3学期		論文の校正 全体発表準備・発表 交流発表会	a: 話し方やパワーポイントの作り方のルールに従い作成することができる。また、発表会の行い方を理解することができる b: 相手に伝わりやすい話し方、提示の仕方について考えることができる c: 論文発表に向け、他者と協力しながら主体的に取り組んでいる。	発表	授業態度の観察 技能観察	授業態度の観察 レポート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度